



と ころ  
戸 高 だ よ り  
福岡県立戸畑高等学校

令和7年度第15号  
令和8年3月1日  
校長 岡本 美加

卒業おめでとう

感受性の豊かな年頃にパンデミックを経験し、武力紛争や自然災害を目の当たりにし、世界の動きが身近な生活にまで大きな影響を及ぼすことを実感している皆さんは、デジタルネイティブとして育った世代でもあります。生成AIをはじめとする人工知能が急速に普及し、言語や知識の領域が機械に代替されつつある現代、AIには真似できない「人間ならではの感性」を磨き高めることが、かつてないほど重要になっています。

戸畑高校で三年間を過ごした皆さんには、この「人間ならではの感性」を高める機会が多く設定されていました。今年度は特に、スクール・ミッションの中の「他者と協働しながら挑戦し続ける力を育む」ことに焦点を当て、「学びあう」をキーワードに教育活動を進めてきました。「自主・調和」の校訓のもと、勉学に部活動に学校行事に全力で取り組む戸畑高校の校風の中で成長し、最上級生となった皆さんは、さまざまな場面でリーダーシップを発揮し、仲間と力を合わせ、後輩たちを見事に導き、戸畑高校の歴史に確かな一歩を刻みました。伝統を大切にしつつ変化に柔軟に対応する中で、意見をぶつけ合い、合意形成に至る過程を経験し、学びあう喜びを体感しました。

中国、春秋時代の思想家、孔子の言行を記した『論語』に「故(ふる)きを温(たず)ねて、新しきを知る」という言葉があります。「温故知新」という四字熟語でよく知られていますが、原文には「温故」と「知新」の間に「そして」という意味の「而して」という文字が入ります。少しの時間かいるのです。自分の経験から得た知識だけでは、とても足りません。独りよがりになってしまうからです。先人の知恵や失敗を礎とし問いを立て、自分とは異なる経験をした人々と知識やアイデアを共有し学びあい、じっくりと温め吟味する。そして、瞬時に解答らしきものを提示するAIにはない「人間ならではの感性」が働き、新しい解や納得解が生み出されるのです。

次代を担う皆さんには、こんな社会を実現したいという志を高く掲げ、様々な課題の解決に挑戦する気概を持ち、人間ならではの感性を生かして、これまでの常識や社会の枠組みを超える新たな価値を創り出すことが期待されています。その活躍の場は、世界中にあります。どんな社会を創りたいか、そのためにどんな人でありたいか志を定め、学びあい、一生懸命に生き抜いてください。それが、皆さんの将来の道を切り拓き、未来の社会に変革をもたらす原動力となるに違いありません。

「どんな人でありたいか」という問いを立てた百瀬学年、七十八回生の一人一人が、戸畑高校での学びを胸に輝く焰とし、校章に刻まれた若鷹のように未来へと意気高く、心の翼を羽ばたかせてほしいと願っています。



戸畑は、奈良時代の『筑前風土記』に「鳥旗」、『万葉集』に「飛幡」と記されていました。本校の校章は、その古い地名からヒントを得、希望に満ちて大空を雄飛していく若鷹にあやかっただけです。昭和23年の学制改革により「戸畑中学校」から「戸畑高等学校」になる時に、在校生から募集されたものの中から選ばれました。若人の身中に鬱勃(うつぼつ:内にこもっていた意気が高まって外にあふれ出ようとするさま)と湧き起る情熱が、強く込められています。